

# 農業掲示板 3月



## うすいえんどう

摘芯・支柱立て・誘引



・摘芯  
・芯止まりが多く、生育がばらつく場合は、本葉が5葉になったら、主茎の先端を摘芯します。

### 支柱立て・ネット張り・間引き

・まず、本支柱の支えとして100～120cmの木杭を200cmおきに地中にしっかり打ち込みます。次に、その横に長さ200cm程度の本支柱(イボ竹、竹等を準備)を立て、ひもでしっかり固定させます。  
・本支柱の上下に針金やマイカー線などを通し、幅180cmのえんどうネットを張ります。(ネットは揺れないようしっかりと張りましょう。)  
・3月中旬頃に、丈夫な株を選んで1株にします。

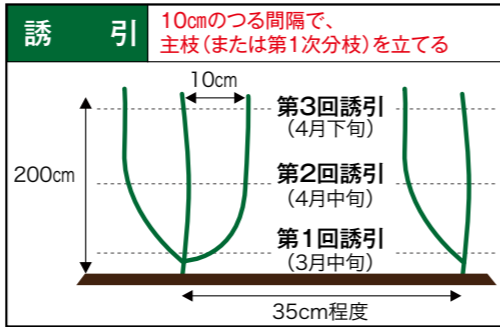
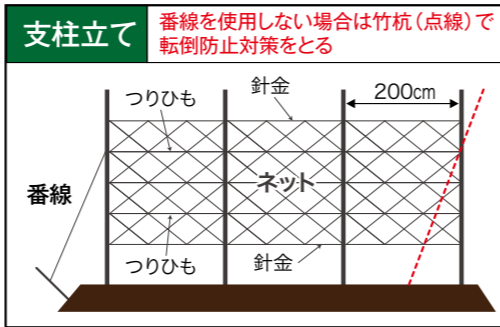
### 誘引・枝の整理

・3月中旬頃に、強い分枝を残して3本仕立てとします。気温があがると急激に生長するため、遅れないようにしましょう。  
・第1回目の誘引は、3月中旬を目途に行います。えんどうの株をネットの最下部につり上げます。誘引作業が遅れると株が大きくなり、倒れて作業がやりにくくなるので、早めに行いましょう。株が倒れている場合は、軽く土を寄せてネットに誘引しやすくします。  
・仕立てた3本の枝が重なりあわないように、10cm程度のつる間隔で広げます。つりあげが難しい場合は、バンダーひも等でネットの両側から挟み込みます。

※ただし遅霜の影響で主枝が焼ける場合もあるので、寒さが心配な場合は、主枝と分枝を合わせて4～5本残し、途中で間引きます。主枝が障害を受けている場合は、早めに生長点を摘芯し分枝を伸ばします。

### わき芽取り

・生育が進むとわき芽がたくさん出てきて樹が混み合い、通気性が悪くなります。大きな莢を付けるためにわき芽は早い時期(3cm以内)に、収穫前まで摘み取ります。但し、遅霜にあった場合は株元から出るためのわき芽を伸ばし利用しましょう。



## 水稲

購入初めの浸種、催芽方法



### 購入初めの浸種、催芽方法(種子2.5kg/10a)

- ①水の量**  
種子1kgに対し、4ℓの水量とします。水量が多いと種子消毒の防除効果が低下する恐れがあり、少ないと酸素欠乏により腐敗する恐れがありますので注意します。
- ②水の状態**  
桶等停滞水で浸種します。水道水のかげ流しや、河川、ため池での浸種は絶対に行わないようにしましょう。
- ③水を交換するタイミング**  
浸種して最初の2日間は交換しません。高温等で酸素不足になった場合などは、水からゆっくりと種子を引き上げて外に出します。  
3日目以降は、酸素供給のため毎日水を交換するか、容器の底にホースを入れてわずかに水を循環させるようにします。
- ④水の色は心配ない**  
購入された消毒済みの種子は識別するために食品添加物で着色がしてあります。浸種時に水が変色しますが発芽や生育には全く影響しません。水の色が消えるまで洗い落とすようなことは絶対しないでください。(消毒効果が低下します)

- ⑤浸種期間**  
積算温度100℃を目安に行います。(例)水温10℃×10日間=100℃
- ⑥催芽方法と催芽状態(催芽・・・初めの芽を出すこと)**  
30～32℃の水に浸し、初めがハトムネ状態になるよう、確認しながら行います。(浸種や催芽が不十分であると出芽ムラになるので注意する。)
- ⑦水切り**  
浸種、催芽が終了した後、初め袋(ネット)を一段に横並べし、素早く水が切れるようにします。気温が高い状態で水切りが悪いと、初めが蒸れて芽が腐敗することがあります。  
**【注意事項】**  
購入された種初めは処理工程で比重選別がしてありますので、塩水選は必要ありません。

※種子更新をしましょう。

# 農業掲示板 3月の農作業



## 山の芋

山の芋のほ場準備について



高品質の山の芋を栽培するには、ほ場準備の段階からしっかり管理を行うことが大切です。今回は、ほ場準備から植付け作業まで大切なポイントを説明します。

### ① ほ場準備

土が良い条件で植付けを行うには、軟上部分を柔らかくしておくことが大切です。そのためには、土壌が乾いている時に管理機等を使って中耕します。また、ほ場を乾きやすくするように、谷さらえをしっかり行うとともに、排水口までしっかり溝をつなぎましょう。  
ほ場に雑草が生えている場合は、10a当たりバスタ液剤500mlを薬液量100ℓ散布します。(使用回数3回以内)

### ② 種芋の準備

種芋は10a当たり180kg必要です。病害や虫害がなく、なるべく形が丸い芋を選びます。  
3月下旬～4月上旬の晴天日に、保管場所から種芋を取り出し、表面を軽く乾燥させ、その後コンテナ等に入れて水洗いをして土を落とします。洗浄することで青かび病やネコブセンチュウの被害芋を発見しやすくなります。

### ③ 種芋消毒

種芋を網袋に入れ、青かび病を重点に防除する場合はベルコートフロアブルの200倍液(使用回数1回)、褐色腐敗病を重点に防除する場合はペンレートT水和剤20の100～200倍液(使用回数1回)に10分間浸漬します。  
種芋の浸漬を繰り返して薬液が減った時は、新たに規定の薬液を作って追加しましょう。

### ④ 種芋の切り方

種芋消毒したのち、種芋を日陰でむしろやビニールシートの上で自然乾燥させます。表面が乾いたら、芋に余計な傷ができないように弾力性のあるまな板と薄刃の包丁を選んで切断します。まず頂芽部(つる首)をやや多めに切り落とし、皮ができるだけ多く付くように1個が40gを目安にミカン切りにします。切断後は傷口の保護と乾燥防止のため消石灰を粉衣し、できるだけ早く植え付けます。

### ⑤ 植付適期

植付適期は、桜が満開時期の4月上中旬頃で、平均気温12～13℃になる時期です。それより早く植えると、地温が低いと種芋が腐敗し欠株になることがあるので注意しましょう。

※農薬を使用する時は、必ず農薬容器、袋のラベル等の記載内容を確認し、使用基準を遵守します。

## 丹波篠山茶

### ・施肥

春肥として、兵庫茶有機配合60kg/10a、油粕200kg/10aを3月上旬～中旬に施用します。  
この施肥は、比較的肥効の緩やかなアンモニア態窒素肥料と有機質肥料を組み合わせため、茶の生育に伴って持続的に肥効がでる春肥に適しています。

### ・整枝

秋整枝のできていない茶園は、3月10日を目途に整枝して下さい。整枝しないままでは「枝」や「赤軸」が混入すると、一番茶の商品価値を著しく下げます。また、整枝作業が遅れると萌芽が遅くなり、一番茶の減収につながります。  
秋に整枝済みの茶園は、4月上旬の萌芽前に2～3cmの深さで春整枝を実施します。

※農薬を使用する時には、必ず農薬容器、袋のラベル等の記載内容を確認し使用基準を遵守する。

## 茶の施肥 整枝 霜対策

### ・霜害対策

霜害が予想される気象条件は、夜間を通して晴れて、雲がなく風が弱い時です。いつでも運転できるように防霜ファンの点検整備は早目に行ってください(運転期間中もこまめに点検し、稼働状況を確認して下さい)。  
ファンの運転開始は3月25日頃(萌芽期の2週間前)からで、サーモスタットは3℃にセットします。4月10日前後の萌芽期以降、新芽生育期には最低でも4～5℃に設定します。

### ・カンザワハダニ防除

カンザワハダニは成虫で越冬し、特にすそ部分の葉裏にひそんでいます。発生は緑色が抜けたような葉の裏を見て確認します。越冬雌成虫には薬剤が効きにくいので、殺卵作用と殺若齢幼虫作用のある薬剤で卵が孵化する3月下旬頃に葉裏に薬剤がかかるよう防除します。

時期	薬剤名	希釈倍数・使用方法・散布液量	使用回数
摘採14日前まで	パロックフロアブル	2,000倍・散布・400ℓ/10a	1回のみ

### ・チャトゲコナジラミ防除

チャトゲコナジラミが増加傾向にあります。すそ部分が、虫の排泄物によるすす状の付着物で黒くなっている、あるいは葉裏に楕円形をした黒色の虫が寄生しているのを認めたら、3月末までに葉裏に次の薬剤を散布します。

時期	薬剤名	希釈倍数・使用方法・散布液量	使用回数
10～3月	トモノールS	100倍・散布・400ℓ/10a	—

### 今後の

24時間OK / 農業技術テレホンサービス 電話:079-556-3384

2月12日 ▶ 2月25日  
馬鈴薯の  
植え付けと管理

2月26日 ▶ 3月11日  
実えんどうの  
春以降の管理

3月12日 ▶ 3月25日  
山の芋の種芋の  
準備・消毒と植え付け

丹波篠山農産物相談・研究センター 開所日時:月・水・金の週3日 10:00～12:00 (ただし祝日・年末年始を除く)